

6/21(土) トークショー

11:00 甘い夜の果て (85 分)
 12:45 ろくでなし (88 分)
 14:35 日本脱出 (96 分)
 16:25 トークショー
 (蓮實重彦氏×久保田智子氏)
 17:30 嵐を呼ぶ十八人 (108 分)
 19:40 水で書かれた物語 (120 分)

6/22(日) トークショー+サイン会

11:00 情炎 (97 分)
 12:55 秋津温泉 (112 分)
 15:05 トークショー
 (吉田喜重監督×岡田茉莉子氏)
 16:15 女のみづうみ (102 分)
 18:15 水で書かれた物語 (120 分)
 20:35 甘い夜の果て (85 分)

6/23(月)

11:00 女のみづうみ (102 分)
 13:00 ろくでなし (88 分)
 14:50 情炎 (97 分)
 16:50 甘い夜の果て (85 分)
 18:35 水で書かれた物語 (120 分)
 20:55 日本脱出 (96 分)

6/24(火)

11:00 情炎 (97 分)
 12:55 日本脱出 (96 分)
 14:50 水で書かれた物語 (120 分)
 17:05 ろくでなし (88 分)
 18:50 女のみづうみ (102 分)
 20:50 嵐を呼ぶ十八人 (108 分)

6/25(水)

11:00 日本脱出 (96 分)
 12:55 嵐を呼ぶ十八人 (108 分)
 15:05 水で書かれた物語 (120 分)
 17:20 女のみづうみ (102 分)
 19:20 ろくでなし (88 分)
 21:05 甘い夜の果て (85 分)

6/26(木)

11:00 甘い夜の果て (85 分)
 12:40 秋津温泉 (112 分)
 14:50 嵐を呼ぶ十八人 (108 分)
 16:55 日本脱出 (96 分)
 18:50 女のみづうみ (102 分)
 20:50 ろくでなし (88 分)

6/27(金) 無声映画活弁上映会

11:00 女のみづうみ (102 分)
 13:00 甘い夜の果て (85 分)
 14:40 秋津温泉 (112 分)
 16:50 嵐を呼ぶ十八人 (108 分)
 19:00 活弁上映会『散り行く花』(80 分)
 20:30 活弁上映会『散り行く花』(80 分)

6/28(土) トークショー

11:00 情炎 (97 分)
 12:55 人間の約束 (124 分)
 15:15 トークショー (野崎歓氏)
 16:20 炎と女 (101 分)
 18:20 樹氷のよろめき (98 分)
 20:20 血は渴いてる (87 分)

6/29(日) トークショー+サイン会

11:00 樹氷のよろめき (98 分)
 12:55 告白的女優論 (126 分)
 15:15 トークショー
 (吉田喜重監督×岡田茉莉子氏)
 16:25 炎と女 (101 分)
 18:25 さらば夏の光 (96 分)
 20:20 情炎 (97 分)

6/30(月)

11:00 炎と女 (101 分)
 13:00 血は渴いてる (87 分)
 14:45 樹氷のよろめき (98 分)
 16:45 小津さん (59 分) / ヴェール (51 分)
 19:10 告白的女優論 (126 分)

7/1(火) 特典映像

11:00 告白的女優論 (126 分)
 13:25 小津世界全4巻 (190 分)
 17:00 血は渴いている (87 分)
 18:45 特典映像 (52 分)
 19:55 人間の約束 (124 分)

7/2(水)

12:00 美の美 (A プログラム):
 ボッシュ/ブリューゲル (110 分)
 カラヴァッジョ/ゴヤ (110 分)
 作品解説 (吉田喜重監督 40 分)
 17:00 美の美 (B プログラム):
 ドラクロア/マネ (88 分)
 作品解説 (小林康夫氏 40 分)
 セザンヌ/ゴッホ (132 分)

7/3(木)

11:00 さらば夏の日 (96 分)
 13:00 情炎 (97 分)
 15:00 人間の約束 (124 分)
 17:25 炎と女 (101 分)
 19:30 血は渴いてる (87 分)

7/4(金)

11:00 血は渴いてる (87 分)
 12:50 告白的女優論 (126 分)
 15:20 人間の約束 (124 分)
 17:50 樹氷のよろめき (98 分)
 19:50 さらば夏の光 (96 分)

7/5(土) トークショー+サイン会 特典映像

11:00 炎と女 (101 分)
 13:00 樹氷のよろめき (98 分)
 14:55 トークショー
 (吉田喜重監督×岡田茉莉子氏)
 16:05 鏡の女たち (129 分)
 18:35 特典映像 (52 分)
 19:50 さらば夏の光 (96 分)

7/6(日) トークショー

11:00 嵐が丘 (131 分)
 13:35 煉獄エロイカ (117 分)
 15:45 トークショー (四方田犬彦氏)
 16:50 エロス+虐殺 (179 分)
 20:45 戒厳令 (111 分)

7/7(月) 特典映像

11:00 エロス+虐殺 (167 分)
 14:05 煉獄エロイカ (117 分)
 16:25 鏡の女たち (129 分)
 18:50 特典映像 (52 分)
 20:05 戒厳令 (111 分)

7/8(火)

11:00 戒厳令 (111 分)
 13:10 嵐が丘 (131 分)
 15:50 鏡の女たち (129 分)
 19:00 エロス+虐殺 (167 分)

7/9(水)

11:00 煉獄エロイカ (117 分)
 13:15 炎と女 (101 分)
 15:20 さらば夏の光 (96 分)
 17:20 戒厳令 (111 分)
 19:35 嵐が丘 (131 分)

7/10(木)

11:00 樹氷のよろめき (98 分)
 13:00 エロス+虐殺 (167 分)
 16:10 嵐が丘 (131 分)
 18:40 さらば夏の日 (96 分)
 20:35 煉獄エロイカ (117 分)

7/11(金) トークショー+サイン会 特典映像

11:00 エロス+虐殺 (167 分)
 14:05 特典映像 (52 分)
 15:15 トークショー
 (吉田喜重監督×岡田茉莉子氏)
 16:30 秋津温泉 (112 分)
 18:50 鏡の女たち (129 分)

上映期間

6月21日(土)～7月11日(金)

料金

一般: 1300 円
 会員・シニア: 1000 円
 大学・高校生: 800 円
 中学生以下: 500 円

『美の美』のみ各プログラム
 (各プログラムには吉田監督と小林康夫氏
 による作品解説が付いています)

一般: 2000 円
 会員・シニア: 1800 円
 学生: 1500 円

※一本立て、各回入れ替え上映です
 (最終回割引はありません)

※5枚組鑑賞券(5,000円)を販売します
 『美の美』ご鑑賞には2枚必要です
 5回券と会員特典は併用できません

特典映像『映画とは何か?』は半券5枚以上を御提示の
 方のみご鑑賞いただける限定上映映像です。上映日
 時はスケジュール表でご確認ください。

トークショー

・6/22(日) 15:05 ・6/28(日) 15:15
 ・7/5(土) 14:55 ・7/11(金) 15:15
 吉田喜重監督×岡田茉莉子氏

・6/21(土) 16:25
 蓮實重彦氏×久保田智子氏
 (フランス文学者) (TBSアナウンサー)

・6/28(土) 15:15
 野崎歓氏(フランス文学者・映画評論家)
 ・7/6(日) 15:45
 四方田犬彦氏(映画評論家)

● ● ●

吉田監督と岡田さんのトークショー後にサイン
 会を開催します。どなたでも参加できます。

● ● ●

特別上映会

2月に引き続きお送り
 する活弁士佐々木亜希
 子によるD.W.グリフィ
 ス『散り行く花』!



料金: 一般2000円 会員・シニア1700円
 学生1500円
 日時: 6月27日(金)19:00～、20:30～

次回予告**イタリア萬歳!**

ヴィスコンティ、フェリーニらを輩出し
 たイタリア映画の黄金時代を回顧する。



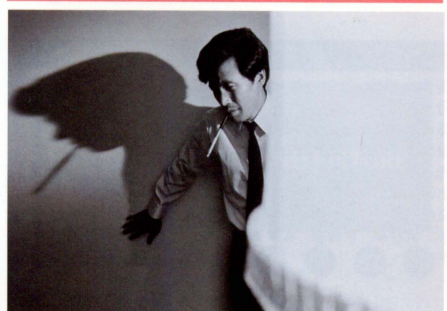
7月12日(土)～8月1日(金)

**KIJU YOSHIDA
Retrospective**

-Back From The Pompidou Center, Paris-

6.21-7.11**talk show**

蓮實重彦氏
 and
 久保田智子氏
 野崎歓氏
 小林康夫氏(『美の美』作品解説)
 四方田犬彦氏

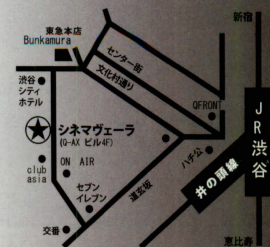
**talk show**

吉田喜重監督
 and
 岡田茉莉子氏

**吉田喜重レトロスペクティブ**

-熱狂ポンピドゥセンターよりの帰還-

ろくでなし 血は渴いてる 甘い夜の果て 秋津温泉 嵐を呼ぶ十八人 日本脱出 水で書かれた物語 女のみづうみ 情炎 炎と女
 樹氷のよろめき さらば夏の光 エロス+虐殺 煉獄エロイカ 告白的女優論 戒厳令 人間の約束 嵐が丘 鏡の女たち 他多数



〒150-0044

渋谷区円山町1-5 Q-AXビル4F

TEL: (03) 3461-7703

http://www.cinemavera.com

シネマヴェーラ渋谷 SHIBUYA
CINEMAVERA

ろくてなし

製作＝松竹／1960年／88分／白黒
脚本：吉田喜重／撮影：成島東一郎／音楽：木下忠司／美術：芳野尹孝
出演：津川雅彦、高千穂ひづる、川津祐介、山下海一郎、安井昌二、林洋介、渡辺文雄、三島雅夫、佐藤慶



6/21 6/23 6/24 6/25 6/26

ブルジョアの息子と彼にたかるように集う4人の大学生グループが、もてあました時間を危険な遊戯に費やしていく。60年代安保を背景にしながら、早くも退廃的でしけた若者像を描いている。ゴダールの「勝手にしやがれ」との類似が封切り当時話題になった、吉田監督の鮮烈なデビュー作。

血は沸いてる

製作＝松竹／1960年／87分／白黒
脚本：吉田喜重／撮影：成島東一郎／音楽：林光／美術：佐藤公信
出演：佐田啓二、三上真一郎、芳村真理、岩崎加根子、織田政雄、佐野浅夫、柏木優子



6/28 6/30 7/1 7/3 7/4

リストラされた木口は、会社に抗議するため自殺を図るが未遂に終わる。その事件により彼は脚光を浴びるが、保険会社やマスコミに利用されることで自分自身の人格をも失っていき、やがて本当の死に追いやられる。「安易に氾濫するヒューマンイズムを逆手に、その欺瞞を描いた」という第2作目。

甘い夜の果て

製作＝松竹／1961年／85分／白黒
脚本：吉田喜重、前田陽一／撮影：成島東一郎／音楽：林光／美術：芳野尹孝
出演：津川雅彦、山上輝世、嵯峨三智子、滝沢修、杉田弘子、浜村純、佐藤慶、佐々木孝丸



6/21 6/22 6/23 6/25 6/26 6/27

デパート勤務の貧しい青年が、女を食いものにしている上があるとするが、その末路に待っていたのは…。高度経済成長の歪みの象徴とも言われた新興工業都市・四日市を舞台に展開する、スタンダードの『赤と黒』。津川雅彦と嵯峨三智子の存在感が光る。

秋津温泉

製作＝松竹／1962年／112分／カラー
脚本：吉田喜重／企画：岡田茉莉子／原作：藤原審爾／撮影：成島東一郎／音楽：林光／美術：浜田辰雄
出演：岡田茉莉子、長門裕之、芳村真理、清川虹子、東野英治郎、山村聡、高橋とよ



6/22 6/26 6/27 7/11

敗戦直前、結核療養で岡山の山奥の「秋津荘」にやって来た青年が娘に出会う。以来男は数年おきに秋津を訪れるが…。偶然のすれ違いによって結ばれない当時の松竹メロドラマの定型を、精神的思想的なすれ違いに置き換えることで人間の情念をあぶり出した。岡田茉莉子出演作100本記念に自ら企画を立ち上げた作品。

嵐を呼ぶ十八人

製作＝松竹／1963年／108分／白黒
脚本：吉田喜重／原作：皆川敏夫／撮影：成島東一郎／音楽：林光
出演：早川保、香山美子、松井英二、岩本武司、木戸昇、殿山泰司、平尾昌章、三原葉子、浪花千栄子



6/21 6/24 6/25 6/26 6/27

瀬戸内海の造船所下請けに集まった十八人の新入りたち。彼らは花札博打や喧嘩で僚監の手を煩わせていたが、夏祭りの日、ある暴行事件が起こる。当時の労働者映画への批判的試みとして、高度経済成長下の底辺で働く社外工たちを映し出した一本。

日本脱出

作＝松竹／1964年／96分／カラー
脚本：吉田喜重／撮影：成島東一郎／音楽：武満徹、八木正生／美術：芳野尹孝
出演：鈴木やすし、待田京介、内田良平、坂本スミ子、桑野みゆき、市原悦子



6/21 6/23 6/24 6/25 6/26

竜夫は金庫破りに加担するが、仲間のひとりが警官を撃ったことから歯車が狂いだす…。東京オリンピックで賑わう街を背景に、孤独と焦燥を抱きながら「憧れのアメリカ」への逃避行が始まる。「アクションだけを純粹に追求することによって、思わぬ異次元へと飛躍する」。吉田監督が手掛けた初のアクション映画。

水で書かれた物語

製作＝中日映画社 配給＝日活／1965年／120分／白黒
脚本：石堂淑郎、吉田喜重、高良留美子／原作：石坂洋次郎／撮影：鈴木達夫
出演：岡田茉莉子、浅丘ルリ子、弓恵子、入川保則、山形勲、岸田森、桑山正一



6/21 6/22 6/23 6/24 6/25

近親姦という題材のために、原作者・石坂洋次郎が映画化不可能と語った同名小説に基づき、松竹を離れた吉田が撮った独立プロ第一作。地元の有力者・橋本の娘と婚約した静雄は、若かりし母と橋本の関係を疑い、婚約者と自分が異母兄弟ではないかと悩む…。

女のみづうみ

製作＝現代映画社 配給＝松竹／1966年／102分／白黒
脚本：石堂淑郎、大野靖子、吉田喜重／原作：川端康成／撮影：鈴木達夫／音楽：池野成／美術：平田逸郎
出演：岡田茉莉子、芦田伸介、露口茂、早川保、夏圭子、益田愛子



6/22 6/23 6/24 6/25 6/26 6/27

愛人に請われるままに自分の裸体を撮影させた宮子は、そのフィルムを奪われ、以後見知らぬ男の脅迫を受けるようになる…。川端康成の『みづうみ』を自由に翻案し、サスペンスタッチで人妻の不安を描きながら、虚像と実像の関係、加害者と被害者の間の共犯関係を鋭くメスを入れた。現代映画社の記念すべき第一作。

情炎

製作＝現代映画社 配給＝松竹／1967年／97分／白黒
脚本：吉田喜重／原作：立原正秋／撮影：金宇満司／音楽：池野成／美術：梅田千代夫
出演：岡田茉莉子、木村功、高橋悦史、菅野忠彦、太地喜和子、南美江



6/22 6/23 6/24 6/28 6/29 7/3

破綻した結婚生活を送る社長夫人・織子。彼女は亡き母の情人であった彫刻家・能登を愛しながら、名も知らぬ労働者と関係を持つ。それはかつて、母が行っていた行為と同じものだった。抑圧された環境から脱出しようとする人妻と、その心の底に潜む理不尽な性の欲望を鮮やかに描いている。

炎と女

製作＝現代映画社 配給＝松竹／1967年／101分／白黒
脚本：山田正弘、田村孟、吉田喜重／撮影：奥村祐治／音楽：松村禎三／美術：佐藤公信
出演：岡田茉莉子、木村功、小川真由美、日下武史、細川俊之、北村和夫



6/28 6/29 6/30 7/3 7/5 7/9

「人工授精をモチーフにしたS F映画のような作品」。伊吹と立子には人工授精によって生まれた一歳七ヶ月の子供がいた。精子の提供者である坂口の妻は、その子が坂口と立子の姦通で生まれたと思込み…。当時、社会的にも話題になった人工授精というテーマを導入することで、父・母・子という近代家族の問題を鋭く提示した。

樹氷のよろめき

製作＝現代映画社 配給＝松竹／1968年／98分／白黒
脚本：石堂淑郎、吉田喜重／撮影：奥村祐治／音楽：池野成／美術：佐藤公信
出演：岡田茉莉子、木村功、蜷川幸雄、赤座美代子、松井信子、藤原祐子



6/28 6/29 6/30 7/4 7/5 7/10

美容院を経営する百合子は愛人と別れるつもりで旅に出るが、別れを強く拒否される。翌日、元恋人のもとへ向った百合子と2人の男の危険な旅がはじまる…。厳冬の北海道の雪原を背景に、次第に追い詰められてゆく3人の関係が鮮烈に描かれる。

さらば夏の光

製作＝現代映画社 配給＝A T G／1968年／96分／カラー
脚本：山田正弘、長谷川竜生、吉田喜重／撮影：奥村祐治、佐藤敏彦／音楽：一柳慧／美術：平田逸郎
出演：岡田茉莉子、横内健、ポール・ボーベ、エレヌ・ヴィエル



6/29 7/3 7/4 7/5 7/9 7/10

欧州7カ国で撮られたロードムービー。日本を忘れるために異郷を旅する日本人の女が、古びた写真画に描かれたカテドラルを探す建築家の男とリスボンで出会い、マドリッド、パリ…と共に旅をする。男の夢と女の過去が出会うとき、そこに立ち現れたのは、忘れた地名「長崎」だった。

エロス十虐殺

製作＝現代映画社 配給＝A T G／1970年／167分／白黒
(216分のロングヴァージョンはDVDでの上映となります)
脚本：山田正弘、吉田喜重／撮影：長谷川元吉／音楽：一柳慧／美術：石井強司
出演：細川俊之、岡田茉莉子、楠侑子、高橋悦史、八木昌子、稲野和子、原田大二郎



7/6 7/7 7/8 7/10 7/11

大正時代のアナキスト大杉染は自由恋愛を提唱・実践し、妻がありながら伊藤野枝らと愛人関係にあった。しかし大杉が妻に刺されるという葉山日陰茶屋事件が起き…。過去の大杉らと現代の若者たちを対比させつつ、自由と権力、個人と国家、女と男のはざまを、前衛的な映像表現によって描く吉田喜重の代表作。

煉獄エロイカ

製作＝現代映画社＝A T G 配給＝A T G／1970年／117分／白黒
脚本：山田正弘、吉田喜重／撮影：長谷川元吉／音楽：一柳慧／美術：山口修
出演：岡田茉莉子、鶴田貝造、木村菜穂、牧田吉明、岩崎加根子、武内亨、筒井和美



7/6 7/7 7/9 7/10

妻が連れ帰った行き倒れの少女アユは、庄田を父だと主張する。この謎の少女の出現によって、庄田は、前衛党に属し武力革命を目指した自らの過去へと遡って行くことになる。過去・現在・未来を交差させつつ、内部に敵を作るという日本の革命運動の不毛を描く。大胆な構図とスタイリッシュなカメラワークによる吉田監督の野心作。

告白的女優論

製作＝現代映画社 配給＝A T G／1971年／126分／カラー
脚本：吉田喜重、山田正弘／撮影：長谷川元吉／音楽：一柳慧／美術：朝倉摂
出演：浅丘ルリ子、有馬稲子、岡田茉莉子、三国連太郎、木村功、月丘夢路



6/29 6/30 7/1 7/4

撮影開始を2日後に控えた映画『告白的女優論』で共演する3人のスター女優は、それぞれ他人には語りえない不安を心の中に抱えていた。浅丘ルリ子、岡田茉莉子、有馬稲子を競演させ、映画スターとは何かというテーマを追求する。これは衰退しつつある映画界への離別と賞賛の歌でもある。

戒厳令

製作＝現代映画社＝A T G 配給＝A T G／1973年／111分／白黒
脚本：別役実／撮影：長谷川元吉／音楽：一柳慧／美術：内藤昭
出演：三国連太郎、松村康世、三宅康夫、倉野章子、菅野忠彦、飯沼慧、内藤武敏、辻萬長、八木昌子



7/6 7/7 7/8 7/9

三国連太郎を主演に迎え、二・二六事件の首謀者として処刑された革命家、北一輝を追及した作品。『エロス十虐殺』『煉獄エロイカ』とともに日本近代批判三部作を形成する。北に対して無名の兵士Aを対置させた脚本は別役実によるもの。

人間の約束

製作＝西友＝テレビ朝日＝キネマ東京 配給＝東宝東和／1986年／124分／カラー
脚本：吉田喜重、宮内婦貴子／原作：佐江衆一／撮影：山崎善弘／音楽：細野晴臣
出演：三国連太郎、村瀬幸子、河原崎長一郎、佐藤オリエ、杉本哲太、武田久美子



6/28 7/1 7/3 7/4

東京・多摩の新興住宅地の会社員の家で、寝たきりだった母タツが死んだ。夫が殺害を自供するが、刑事は自供に疑いを持つ。実は、痴呆が進むタツの症状に振り回される家族の誰もが、その死を望み始めていたのである。老いと家族、夫婦愛を静かに厳しく見つめた問題作。

嵐が丘

製作＝西友＝MEDIACUTEL 配給＝東宝／1988年／131分／カラー
脚本：吉田喜重／原作：エミリー・ブロンテ／撮影：林淳一郎／音楽：武満徹
出演：松田優作、田中裕子、名高達郎、石田えり、萩原流行、伊東景玄子、志垣太郎、高部知子、古尾谷雅人



7/6 7/8 7/9 7/10

火の神を祭る山部一族の東の荘の当主・高丸は、都から鬼丸という異様な容貌の少年を連れ帰る。鬼丸は下男として仕え、やがて高丸の娘・絹と愛し合うようになる…。エミリー・ブロンテの名作の舞台を中世日本に置き換えることで、禁じられた2人の関係がよりリアルに浮かび上がる。

鏡の女たち

製作＝グルーヴコーポレーション＝現代映画社＝ルートビクチャーズ＝グルーヴキネマ東京／2002年／129分／カラー
脚本：吉田喜重／撮影：中堀正夫／音楽：原田敬子
出演：岡田茉莉子、田中好子、一色紗英、室田日出男、山本未来、北村有起哉、三條美紀、大塚瑛、西岡徳馬

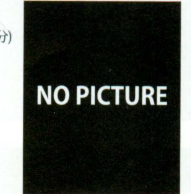


7/5 7/7 7/8 7/11

娘を置き去りにして24年前に失踪した美和が発見された時、彼女は記憶を失っていた。美和の母・愛はアメリカに留学している孫娘・夏来を日本に呼び寄せる…。三世代の女性たちを通して広島原爆問題を問い直す。

美の美 (DVD)

Aプログラム
ボッシュ(66分)/ブリュゲル(44分)
カラヴァッジョ(44分)/ゴヤ(66分)
作品解説 吉田喜重監督(40分)



7/2

Bプログラム
ドラクロア(44分)/マネ(44分)
作品解説 小林康夫氏(40分)
ゴッホ(88分)/セザンヌ(44分)

吉田監督が各国に赴き、絵画や遺跡について、画家たちの生涯や彼らの美意識、そしてひとつの美的空間が生まれるまでの歴史的背景、国土などについての考察を試みながら、古今東西の美の世界を紹介した「美の美」は、1973年から77年にかけて制作・放送されたドキュメンタリー番組である。

吉田喜重が語る小津安二郎の映画世界 (DVD)

第1回「サイレントからトーキーへ／映画との出会い 反復とすれ」
第2回「戦中戦後の軌跡／映画が言葉を発するとき」
第3回「『晩春』と『東京物語』／限りなく開かれた映像」
第4回「その短すぎた晩年／無秩序な世界につつまれて」



7/1

1993／45分×4回
製作／NHKクリエイティブ＋アドックシステムズ／構成・演出：吉田喜重／撮影：前島一男／編集：高橋智子

1963年晩秋、入院見舞いに訪れた若き吉田喜重に小津はこう語る。「映画はドラマだ。アクシデントではない」。同じ松竹大船撮影所の監督としての視点から、小津映画の秘密に迫った映像による映画作家論。代表的な小津作品の映像を引用しながら、小津作品の魅力が語られる。小津誕生90周年にあたって、4回にわたって放送された作品であり、『吉田喜重が語る小津さんの映画』の180分完全版である。

吉田喜重が語る小津さんの映画 (DVD) 6/30

夢の映画 東京の夢 (DVD)
明治の日本を映像に記録したエトランジェ ガブリエル・ヴェール



『吉田喜重が語る小津さんの映画』
1993／59分
製作／NHKクリエイティブ＋アドックシステムズ／構成・演出：吉田喜重／撮影：前島一男／編集：高橋智子
小津安二郎生誕90周年を記念してNHKで放送された全180分番組の再編集版。代表的な小津作品の映像を引用しながら、「反復とすれ」「不在の空間」など、小津映画の特徴が語られる

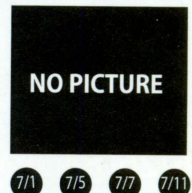
『夢の映画 東京の夢』
1995／51分
製作／東京MXテレビ＋現代映画社／演出・構成・語り：吉田喜重
出演：D・E・ムーヴ・フェットデー、ラック・ヴェーダ、高橋明

映画生誕100周年を記念して放送された作品。リュミエール兄弟から派遣されたカメラマンのカプリエル・ヴェールの生涯を自身の撮影した映像を交えてたどる。



特典映像『吉田喜重 映画監督とは？』(DVD)

製作＝アレルマン・フィルム＝シネシネマ／52分
監督：ニコラ・リボシュ／撮影・編集：ファビアン・リクール／録音：ポール・ラフォルチュン
出演：吉田喜重、蓮實重彦、岡田茉莉子、青山真治、ジャン・ドゥーシュ



7/1 7/5 7/7 7/11

吉田喜重が自ら語る、生い立ちから松竹時代、反メロドラマの時代、「性と政治」の時代、そして『美の美』演出の後いったん映画を離れて、再び映画に復帰する、その半生。「映画監督とか何か？」という問いをめぐる自らの反復、そして蓮實重彦、岡田茉莉子、青山真治、マチュー・カベル、アントワヌ・ド・ベック、ジャン・ドゥーシュ、シャルル・テッソンによって語られる吉田映画の真髄。残念ながら、5枚以上の半券をご提示いただいた方のみに向けての限定上映です(料金は無料です)。

特別上映作品『散り行く花』(Broken Blossoms) (DVD)

1919年／66分
監督・脚本：D.W.グリフィス
原作：トーマス・バーク
編集：ジェームス・スミス
撮影：G.W.ビッツァー
出演：リリアン・ギッシュ、リチャード・バーセルメス、ドナルド・クリスプ、ノーマン・セルビー



6/27

酒浸りの生活をおくる元ボクサーのパロウズは、献身的で美しい娘のルーシーを虐待していた。ルーシーに淡い想いを寄せる中国人青年チェンは彼女をかくまうが、パロウズに見つかり悲劇が起こる…。詩情に溢れた映像とリリアン・ギッシュの優さが胸を打つ、無声映画の傑作。